

新潟県立図書館におけるマルチメディアDAISY図書 の活用 —障害者サービス普及の入口として

新潟県立図書館
佐藤江理子

新潟県立図書館の障害者サービス

新潟県立図書館では、2016年に対面朗読サービスを始め、その後リーディングトラッカーの館外貸出、拡大読書器の新機種への交換など、来館した方へ向けた読書サポートツールの充実を図ってきました。2018年にはサピエ図書館に加入し、利用者へのDAISY貸出サービスを開始しました。また、これらのサービスに興味を持ってもらうきっかけとして、イベントや図書館員を対象とした研修会などで、「わいわい文庫」に収録されたマルチメディアDAISY図書の体験や紹介を行い、PRに努めてきました。

段階的に障害者サービスを展開してきてはいますが、実際のところあまり利用は伸びていないのが現状です。そこで、2019年度は県民へ向けたより効果的な普及と利用促進をねらい、二つの目標をもって障害者サービスに取り組みました。

一つ目は「読書における障害について学び、障害者サービスの充実を図ること」です。折良く伊藤忠記念財団主

催の「読書バリアフリー研究会」を当館にて開催することになりました。参加者とともに障害やマルチメディアDAISY図書などの資料の有効性について理解を深め、当館のサービスのあり方について再考する機会を得ることができました。

二つ目は「ふだん図書館に来館しない利用者にも障害者サービスについて知ってもらうこと」です。これまでは来館した人へ向けて障害者サービスの紹介をすることがほとんどでしたが、それでは本当にサービスが必要な人に情報を届けるには足りないと感じていました。

そこでふだん図書館に来ない方にも、マルチメディアDAISY図書をはじめ障害者サービスの存在を知ってもらいたいと、「バリアフリー読書体験会」の開催や、「福祉・介護・健康フェア」というイベントへのブース出展を行い、マルチメディアDAISY図書などの体験会を行いました。

以下、これらの取り組みについてご紹介します。

読書バリアフリー研究会

2019年6月29日(土)に、伊藤忠記念財団主催の「読書バリアフリー研究会—みんなに読む喜びと楽しさを伝えよう」が、当館を会場に開催されました。当日は、公共図書館や学校図書館の関係者をはじめ、障害をお持ちのお子さんのご家族など計70名が参加し、読書における障害がある子どもたちにも読書を楽しんでもらうにはどうしたらよいのか学び、理解を深めました。

講義では、専修大学文学部教授の野口武悟先生、東京都立鹿本学園教諭の本多桂子先生、金沢星稜大学人間科学部教授の河野俊寛先生よりお話しいただきました。読書バリアフリー法や学習障害についてのお話のほか、「わいわい文庫」の活用事例などについてもお話しいただきました。

そして最後に、伊藤忠記念財団の矢部剛さんより財団の取り組みについてのお話がありました。熱意ある矢部さんのお話、参加者はみな熱心に耳を傾け、共感していました。

図書館における障害者サービスや、マルチメディアDAISY図書などの資料について体系的に学ぶことができ、当館におけるサービスでどのような配慮が足りていないのか、どんな工夫が必要なのかなどを改めて考えることができました。

バリアフリー読書体験会

2018年度から館内で定期的に行っている「バリアフリー読書体験会」では、拡大読書器やリーディングトラッカー、大活字本などとともに、マルチメディアDAISY図書をiPadで紹介しています。

今回は前述の「読書バリアフリー研究会」の開催に合わせ、6月25日(火)～30日(日)に実施しました。一般の来館者のほか研究会の参加者など、延べ272名の方が体験会に参加してくださいました。

参加者の中にはお子さんも多く、中には30分以上集中して読んでいる子どももいました。保護者の方からは「こんなに集中して読書を楽しんでいる姿を初めて見た。」と驚きの声があったり、まだ読書ができない赤ちゃんの保護者の方からは「もしかしたら将来この子も読みでつまずくことがあるかもしれない。いま、DAISYの存在を知ることができてよかった。」という感想もありました。

読書に困難を抱えている方に向けてサービスを行うのはもちろんのこと、いまは必要としていなくても、将来必要になった時に選択肢としてマルチメディアDAISY図書が挙がるような環境づくりをすることも、公共図書館の役目の一つなのだという新たな気づきもあり、当館にとっても有意義な体験会を開催することができました。



「福祉・介護・健康フェア2019 にいがた」への出展

「福祉・介護・健康フェア2019にいがた」は地元の新聞社と社会福祉協議会が主催するもので、毎年2万人近い来場者数を記録する大きなイベントです。福祉関係者だけではなく、一般の方も多く来場するイベントであることから、ふだん図書館に立ち寄らない方にも障害者サービスを紹介する好機になると考え、今年初めて出展しました。

当日は大活字本やリーディングトラッカーなどの紹介とあわせ、マルチメディアDAISY図書や拡大読書器の体

験ができるコーナーを設けました。

その結果、のべ308名が体験してくださいました。障害のある子どもたちを対象とした施設や病院などの関係者も、マルチメディアDAISY図書を体験してください、「これならうちの施設に通っているあの子ども読書ができるかも。」「マルチメディアDAISY図書の存在は知っていたけれど、実際にふれる機会がなかった。どのようなものか知ることができてよかった。」と感想を述べられていました。

ただ、中には、「重度障害の子だが一生懸命紙の本をめくって読もうとしている。それをiPadなどに置き換えてしまうと、本人が『できることを制限されてしまった』と感じてしまうのではないか。」など、障害をお持ちの方と近くで接している方だからこそその視点で心配を述べられる方もおられました。

これまで障害をお持ちの方や近くで接している方から直接お話を伺う機会が少なかったのですが、今回さまざまな感想やご意見を伺うことができ、大変勉強になりました。利用者が読書において抱えている障害も、利用者が求める読書環境もさまざまです。それらすべてに図書館だけで対応することはむずかしいところもあります。しかし、こちらからマルチメディアDAISY図書などの存在を知っていただき、感想やご意見などを伺っていくことを続ける

ことで、図書館も利用者も、双方にとってよりよい取り組みが生まれていくのではないかと思います。サービスのPRのみならず、障害者サービスに取り組むうえで、大事なことにも改めて気づくことができました。

今後の課題

2019年6月に「読書バリアフリー法」が施行され、誰もが読書をしやすい環境の整備が求められています。しかし、

当館での障害者サービスやマルチメディアDAISY図書の取り組みはまだ発展途上です。「バリアフリー読書体験会」を今後も引き続き実施し、県民への普及・利用促進に努めてまいりたいと思います。

また、広く多くの方にマルチメディアDAISY図書をはじめ障害者サービスを知ってもらうため、2020年度以降は学校図書館や福祉施設、病院などの関係団体との積極的な連携を目標に取り組んでいきたいと考えています。

日本昔話の旅

〈近畿〉



三重県 ハチの恩がえし



三重県四日市市 大人道ものがたり



滋賀県 みいでらのかね



京都府 宇治の橋姫さん



大阪府 てんまのとらやん



奈良県 わらしべ長者



和歌山県 かみながひめ



和歌山県由良町 天狗がたてたお寺



兵庫県 おばあさんの石臼